

38 三位法眼糟尾家と録事法眼智玄

石原 力

乗附家のつけは丹波上野介〔尊卑分脈〕では上野守良基がいるを祖とし、法印等を輩出した名門であるが、玄頭の次男為春（いしゆん）（一六三七没）を初代とする乗附為春家については、前回、前々回總會で報告した。

乗附為春は女科を主とする三位法眼糟尾なすお久牧くまきに入門、糟尾氏を相続、後乗附に復した。この糟尾久牧とその家系については、家伝秘方の他には不明であった。ここに発表する鎌倉時代の僧医智玄ちげんの關係は、推測に基くものであるが、その根拠を提示したい。

録事法眼智玄ろくじについては、服部政也（甫庵）編輯の『三喜備考』（文政五年、一八二二、明治二二年刊）に収載されている「元和古写方」序に、「中古時下毛糟尾有録事法眼者、精于治病、豊法之神、授与禁方、伝存于口

碑、三百年前、支山人範翁（注田代三喜）、伝其遺方、後人亦雖有偶得其方一二者、秘不泄」とある。

これを裏書きするように、奈須恒徳の『本朝医談二篇』（文政一三年、一八三〇）には、「これ〔田代三喜〕より前にも雷神の薬方を授りし事あり 録事法眼是なり 録事の古迹は下野国安蘇郡糟尾郷坂東第一番の札所也 法眼名は智玄といふ 曾て入唐し医方に明らかなり 其後雷神これに薬方を授け且洪水の備に川道を定む 後鳥羽院御脳ごのうの時御薬を奉り御平愈ありて録事法眼の号を賜ると 寺僧及里人の談如此 されば雷神伝授の薬方ある事凡慮を以て疑ひはかるへからず」という記事がある。

浅田宗伯『皇国名医伝前篇』（明治六年）には、「僧智玄。居于下野安蘇郡糟尾郷。嘗赴宋伝医方。後鳥羽帝弗豫。奉薬速愈。因叙法眼。世所謂録事法眼是也。」と記述され、これは富士川游『日本医学史』『大日本人名辞書』鷺尾順敬『日本仏家人名辞書』竹岡友三『医家人名辞書』にそのまま引用されている。

なお橘輝政『日本医学先人伝』（昭和四四年）では、智玄渡宋の時期を建保年間（一一二一—一九）としている。

他方糟尾久牧については、乗附家の伝承以外には知られていない。乗附春海の『のつひ乗氏累代小伝』(明治三〇年代、白河市乗附敏信氏蔵)には、「初代乗附為春 本姓ハ丹波ニシテ氏ヲ乗附ト曰フ 左馬丞ト称シ為春齋ト号ス 上州ニ生レ武州榛はん沢〔埼玉県岡部町〕ニ移リ 天正年中法眼糟尾久牧ニ從テ医法ヲ学ヒ 天正十一年(一五八三)十一月糟尾家医道断絶スルヲ以テ 法眼命シテ特ニ其家名医法及重器ヲ併セテ之ヲ継承セシム 其状ニ曰

代々医道之義就断絶 弟子為春齋ニ名字并ニ重代之布袋 医道一流 不相残令相統者也

天正拾一年癸未拾一月吉日

糟尾法眼久牧 花押

依テ糟尾為春ト称シ小田原北条家ニ仕フト云フ 後糟尾某ニ家名重器ヲ還付シ乗附氏ニ復ス……又薬師佛銅像一 体 居士以来ノ旧物ナリ 糟尾家口伝良方録モ亦然リ」と記されている。

以上から、①糟尾の姓は智玄の糟尾郷に因むこと、②世襲ではない三位法眼家〔法眼の相当位は五位〕を名乗ったのは、榮譽の他に録事法眼の出自の誇示も考えられ

る。③智玄の寺は調査の結果、栃木県上都賀郡粟野町しも下粕尾かすお九四九瑠璃光山蓮照院常楽寺(創建 寿永二年、一一八三)であることが判明した。寺の話では本尊は薬師如来、二月一日が録事尊の縁日で、智玄の弟子で糟尾姓を名乗る者が福島の方で典医の家系となり、横浜に子孫が住むという。④『糟尾家統女伝之秘方』(延宝八年、一六八〇)には、薬師仏の言により秘方としたとある。⑤醍醐文書(慶長一七年)に「佐野糟尾村」、服部家秘伝薬に「佐野乗附」があるのは、京ではなく佐野周辺での糟尾、乗附の接点を思わせる。

鎌倉・室町・安土桃山時代に北関東に続出した名門医家群——智玄、田代、糟尾、乗附の諸家の間の繋りが見えてきた。

(賛育会清風園診療所)